

福島県浜通り平坦地域における露地電照小ギク栽培の 8 月旧盆出荷の実証（浪江町、楡葉町）

安田貴則・根本知明・鈴木洋平*

(福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センター・*福島県農業振興課)

Empirical research on Small Chrysanthemum (*Chrysanthemum morifolium*) cultivation for early August harvesting by changing light cycle in a plain field of Coastal Region of Fukushima Prefecture (Namie Town and Naraha Town)

Takanori YASUDA, Tomoaki NEMOTO and Yohei SUZUKI*

(Hama Agricultural Regeneration Research Centre, Fukushima Agricultural Technology Centre・

*Agricultural Promotion Division, Agriculture, Forestry and Fishery Department, Fukushima Prefectural Government)

1 はじめに

小ギクは仏花であるため、7 月新盆・8 月旧盆・9 月彼岸の需要期に適切に出荷することが重要である。露地の 8 月旧盆出荷では、電照処理による開花調整を行うことが多いが、福島県浜通り地域では電照処理が有効な品種や電照処理期間が明確でなかった。

そこで本研究では、福島県浜通り平坦地域における 8 月旧盆出荷を目標とした露地電照小ギク栽培について実証を行った。

2 試験方法

8 月旧盆に出荷可能である 8 月 4 日を採花盛期とするため、品種、栽培地、電照消灯日の検証を行った（表 1）。

(1) 供試品種

白熱電球による発蕾抑制効果が高い品種とされる¹⁾、赤色系の‘精ちぐさ’、黄色系の‘精こまき’、白色系の‘精しらいと’の計 3 品種を用いた。

(2) 試験場所

福島県浜通り地域の浪江町及び楡葉町の生産者ほ場で行った。それぞれのほ場の標高は 7 m 及び 86 m である。

(3) 栽培概要等

挿穂は、2016 年 4 月 12 日に行った。定植は、浪江町では 2016 年 5 月 2 日及び 5 月 8 日、楡葉町では 5 月 2 日及び 5 月 6 日に行った。摘心は、定植の 10 日後に行い、仕立て本数は 3 本とした。

栽植様式は、60 cm の畝に条間 30 cm、株間 12 cm の 2 条植えとした。

施肥は、a 当たり成分量で N 1.0 kg、P₂O₅ 1.0 kg、K₂O 1.0 kg を施した。

(4) 電照処理

電照は、白熱電球を用い、挿穂時の 4 月 12 日から開始した。

福島県中通り地域で行われた「同一品種での 8、9 月需要期出荷が可能な夏秋咲き小ギクの露地電照栽培」²⁾を参考に採花目標日（8 月 4 日）から逆算し、消灯日は‘精ちぐさ’で 6 月 23 日（43 日前）、‘精こまき’

で 6 月 17 日（49 日前）、‘精しらいと’で 6 月 10 日（56 日前）とした。

(5) 試験区の構成

試験区を表 1 に示し、1 区 5 株 3 反復で行った。

(6) 調査方法

3 輪開花した時点で採花し、採花期、切り花長を測定した。また、採花期は、採花始期：調査全茎の 10%、採花盛期：50%、採花終期：90%を採花した日とした。

3 試験結果及び考察

無電照 5 月 2 日定植の場合、浪江町において‘精ちぐさ’、‘精こまき’、‘精しらいと’は、採花盛期が 7 月上旬から 8 月上旬であり、楡葉町においては 7 月上旬から下旬だった（表 2）。一方、電照を行った場合、採花盛期は浪江町、楡葉町ともに 3 品種すべて 8 月 4 日または 8 月 5 日であり、ほぼ採花目標日に開花した。

また、定植を遅くした浪江町の 5 月 8 日定植及び楡葉町の 5 月 6 日定植でも、電照を行うことで 3 品種すべての採花盛期をほぼ採花目標日にできた（表 2）。なお、浪江町において定植日を 6 日間遅くした場合、切り花階級が 1 階級程度低下した（表 3）。これは定植日を 4 日間遅くした楡葉町でも同様の結果であった。

また、‘精しらいと’は、無電照下においても 8 月旧盆に出荷可能な時期に開花したが、電照を行った場合、切り花長が長くなることから（表 2）、電照処理は有効であると考えられた。

なお、定植が遅くなると切り花階級が低下したことから（表 3）、高階級の切り花割合を高めるためには定植日を早くすればよいが、福島県では遅霜の問題がない時期に定植する必要がある。

4 まとめ

福島県浜通り平坦地域において、電照による発蕾抑制効果の高い小ギクを用い、品種毎に消灯日を調整することで、栽培地や定植日が異なっても 8 月旧盆の目標採花盛期にほぼ計画通りに開花を誘導できることが明らかになった。

引用文献

1) 森義雄，鈴木安和，山形敦子，村崎聡，高田真美，

矢吹隆夫, 横井直人, 間藤正美, 田附博, 永井永久, 矢野志野布, 小川貴弘, 廣瀬信雄, 小田篤, 中野善公, 久松完, 住友克彦. 2017. 夏秋小ギクの安定生産に向けた電照栽培用品種の選抜. 園芸学研究 16(1):27-39.

2) 鈴木安和, 高田真美. 2015. 同一品種での8、9月需要期出荷が可能な夏秋咲き小ギクの露地電照栽培. 福島県農業総合センター平成 26 年度参考となる成果.

表1 本研究で設定した試験区

定植場所	電照	品種(花色)	定植日
浪江町	有	精ちぐさ(赤)	5月2日
×	×	精こまき(黄)	×
檜葉町	無	精しらいと(白)	5月8日/5月6日

表2 電照処理の有無及び定植日の違いが各小ギク品種の採花期及び切り花長に与える影響(2016 年)

	電照有無	品種(花色)	5月2日定植					5月8日定植				
			採花始期	採花盛期	採花終期	消灯からの 到花日数(日)	切り花長 (cm)	採花始期	採花盛期	採花終期	消灯からの 到花日数(日)	切り花長 (cm)
浪江町	有	精ちぐさ(赤)	8月3日	8月4日	8月5日	43	84.3 ± 2.0	8月3日	8月4日	8月5日	43	75.6 ± 3.1
		精こまき(黄)	8月3日	8月4日	8月5日	49	84.8 ± 3.9	8月3日	8月4日	8月5日	49	75.2 ± 2.8
		精しらいと(白)	8月4日	8月4日	8月5日	56	76.3 ± 3.3	8月4日	8月5日	8月6日	57	65.7 ± 3.1
	無	精ちぐさ(赤)	7月8日	7月12日	7月15日	—	41.7 ± 3.1	7月11日	7月14日	7月16日	—	33.1 ± 1.8
		精こまき(黄)	7月14日	7月17日	7月19日	—	54.0 ± 2.8	7月19日	7月20日	7月22日	—	49.5 ± 2.3
		精しらいと(白)	7月31日	8月2日	8月5日	—	65.3 ± 3.1	8月1日	8月4日	8月5日	—	63.6 ± 2.5
	電照有無	品種(花色)	5月2日定植					5月6日定植				
			採花始期	採花盛期	採花終期	消灯からの 到花日数(日)	切り花長 (cm)	採花始期	採花盛期	採花終期	消灯からの 到花日数(日)	切り花長 (cm)
檜葉町	有	精ちぐさ(赤)	8月4日	8月5日	8月7日	44	85.7 ± 1.3	8月4日	8月5日	8月7日	44	79.3 ± 2.7
		精こまき(黄)	8月3日	8月4日	8月6日	49	89.6 ± 2.1	8月3日	8月4日	8月6日	49	78.9 ± 2.8
		精しらいと(白)	8月3日	8月4日	8月6日	56	76.5 ± 2.1	8月3日	8月4日	8月6日	56	68.0 ± 2.2
	無	精ちぐさ(赤)	7月8日	7月10日	7月13日	—	35.9 ± 2.3	7月8日	7月10日	7月13日	—	32.3 ± 2.3
		精こまき(黄)	7月15日	7月17日	7月20日	—	55.1 ± 2.9	7月15日	7月17日	7月20日	—	53.0 ± 1.5
		精しらいと(白)	7月30日	7月31日	8月2日	—	66.6 ± 2.4	7月31日	7月31日	8月3日	—	—

- 1) 電照処理は、挿穂日からの6時間処理(22:00~4:00)。
- 2) 電球は、電照用電球(みのり)を4.8 m²に1球、高さ1.8 mに設置した。
- 3) 採花始期は調査全茎の10%、採花盛期は50%、採花終期は90%を採花した日。
- 4) 消灯からの到花日数は、消灯日から採花盛期までの日数。
- 5) 切り花長は、平均値±標準偏差。

表3 浪江町での電照処理下における定植日の違いが各小ギク品種の切り花長階級に与える影響(2016 年)

品種(花色)	5月2日定植				5月8日定植			
	切り花階級				切り花階級			
	2L (%)	L (%)	M (%)	規格外 (%)	2L (%)	L (%)	M (%)	規格外 (%)
精ちぐさ(赤)	100	0	0	0	7	93	0	0
精こまき(黄)	87	13	0	0	13	80	7	0
精しらいと(白)	20	73	7	0	0	7	93	0

- 1) 切り花階級は、2L:80 cm 以上、L:70 cm 以上 80 cm 未満、M:60 cm 以上 70 cm 未満、規格外:60 cm 未満(福島県青果物標準出荷規格(平成 26 年度))。